MIC 情報通信 vol.35

（2012年1月発行）

Intertek MOODY INTERNATIONAL

発行

ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション株式会社
大阪事務所

〒532-0003 大阪市淀川区宮原4-1-14
住友生命新大阪北ビル13F
Tel:06-6150-0571 Fax:06-6150-0575

◇ MIC情報通信のバックナンバーは弊社ホームページ（http://www.moodygroup.co.jp）でご覧頂けます。

CONTENTS

1 新年のご挨拶

2 特集
3 「QMSと経営活動を整合させる 6つの視点」

4 MICニュース
- ●温室効果ガス排出量検証業務
- ●JRCA講演会開催
- ●世界品質デー 2011
- ●Q&A

5 審査の現場から
- ●お客様紹介
  （株式会社リチウムエナジージャパン）

6 連載よみもの
- ●MICリレーエッセイ
  「秋田市 竿燈まつりで元気に」
  （審査員 高橋 敏治）
- ●環境よみもの
  「環境とISO14001」

7 お客様からのお便り
- ●「子供たちに喜ばれる通学カバンの提供」
  （株式会社ハシモト）
- ●「天然青森ヒバのある暮らし」
  （ヒバ開発株式会社）

8 研修コースのご案内
- ●ちょっといっぷく
- ●コースのご紹介/受講生からのお便り

新年のご挨拶

代表取締役 坂井 喜好

皆様　平成24年の年頭に際しご挨拶を申し上げます。

平成23年3月11日14時46分、マグニチュード9.0、2万人もの犠牲者を出した東日本大震災、更に福島第一原発原子炉のメルトダウンは、人々が先祖代々受け継ぎ築いてこられた地域の基盤をことごとく奪い去りました。 改めて、この大災害で被災された方々に、心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

一方、被災されたお客様から回復状況を手紙でお知らせ頂いたり、延期していた審査を受ける目途が立ったとのご連絡を頂いたりと復旧の兆しを聞く毎に、私たちも安堵する時がありました。 震災後暫くは、節電に伴う操業日・時間の変更、交通機関の制限による審査員の移動困難など、審査業務にも支障が出ましたが、お客様のご理解とご協力の下、混乱を乗り切れましたことに心から感謝申し上げます。

昨年は大地震以外にも、台風や大雨の影響で日本各地に大きな被害が出ました。 タイの洪水で被害を受けられたお客様もいらっしゃると聞きます。

私たちは、過去の数々の災害で無念な思いをされた被災された方々の声なき声に真摯に耳を傾け、もう一度原点に立ち返り、それらの厄災を風化させず、国家の教訓として認め、国内外の数々の災害を知識化して、将来の予防に繋げることが犠牲となった方々への弔いであり復興への一歩でもあると考えます。

さて今年は、アメリカ、ロシア、韓国の大統領選挙の年でもあります。 それに伴い、世界の経済の磁場はまた大きく変化するかもしれません。 我が国日本はその変化をどのように捉え、競争力を高め、彼ら以上に国の魅力を増していくのか、重厚長大・軽薄短小、いずれの産業も、生き残りを掛けた重要な岐路に差し掛かっているのかもしれません。

私たちが生き残る為には、容赦なく押し寄せる様々なリスクに、勇気を持って立ち向かい、リスクがもたらすマイナス影響は最小化し、リスク負担によるプラス影響やチャンスは最大化する、リスクの最適化のデザイナーになって生き抜くことが求められるのではないでしょうか。

本年も私たちの心構えは変わりません。 Vision and Mission（基本理念）「私たちが審査機関の模範となってお客様の更なる成功と発展の為、継続的改善を促す触媒となって尽くす」を憲法とし、お客様の企業価値創造のため、日本の産業のため、ひいては国益のためにプロフェッショナルな審査を貫き通す覚悟です。

今日私たちが生き残っているのは、お客様はもちろんのこと、Vision and Missionを達成している審査員の皆様、それに共感し、応援頂き支えてくださっている皆様、裏方で前線で主体性を持って企業文化を実践し、地道な努力を積み重ねている従業員のお陰です。

これからも現状に満足することなく、新技術や新商品を取り入れながら従来のものを更に発展させ、進歩への意欲を常に維持し、名実共に審査機関の頂点を目指します。

最後に、皆々様のご健康とご多幸をお祈り申し上げますと共に、本年も何卒ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

特集

QMSと経営活動を整合させる6つの視点

認証取得はしたものの、システムのマンネリ化や効果的に運用できていないなど、活用法に悩まれている組織の声もよく聞きます。また、ISOで経営効果を生み出せているのか疑問を抱いている企業や、認証を維持しているものの形式的に維持している企業も少なからず存在します。今回、QMSを経営活動に役立てるための6つの視点を取り上げ、『目に見えないモノ(理念、意識)が目に見えるモノ(財務、顧客、業務、人材)を生み出す』という原則を通して、社内意識やモチベーション向上に繋げるヒントをご紹介します。システム活性化に繋げて頂ければ幸いです。（編集部）

ISO9001と経営活動を整合させる6つの視点

角子 裕司

はじめに

ISOを有効活用し、人材育成や品質向上、顧客満足度向上に寄与し経営成果を出されている中小企業は多数存在します。ISOを経営に役立たせるための鍵は一体何なのでしょうか。様々な要因もあるのでしょうが、ISOを有効活用できていない企業では、ISO活動と経営活動とを切り離された状態で維持されておられるケースが目立ちます。

ISO活動と経営活動

ISO9001の規格では、経営活動において重要な要素である「人材」「業務(プロセス)」「顧客」の視点については明文化されていますが、経営活動から絶対に切り離すことが出来ない「財務」の視点は直接明文化されていません。「経営者の責任」として、ISO活動の中にこの視点を盛り込むと、経営層が更に積極的に関与する仕組みとなり、経営活動との整合性も向上します。これらの4つの視点はバランス・スコアカードの手法になりますが、実際の経営現場では、「企業の目指すべき方向性」や社員の「やりがい」や「モチベーション」も経営活動の重要な要素となり、無視することはできません。どんなに優れたマネジメントシステムでも、人は理屈、理論だけでは本気で動いてくれません。組織では、科学的な戦略だけでなくリーダーの感情(愛情・感謝)も伴えば、社員から理解を超えた納得を得られ、全員が1つの方向に動き出し、当初の目標よりも大きな成果をもたらすこともあります。

経営活動と6つの視点

ISO9001は、経営活動において中心的で重要な要素ですが、企業を永続的に発展させるための仕組みにするために「理念、財務、意識」の3つの視点も必要となります。これらの視点をISO活動に取り入れることで、経営活動と深くリンクし経営活動全般の見える化が図れる戦略的なマネジメントシステムになります。

※参照:右ページ上表「5階建てビル型経営システム」

①理念の視点

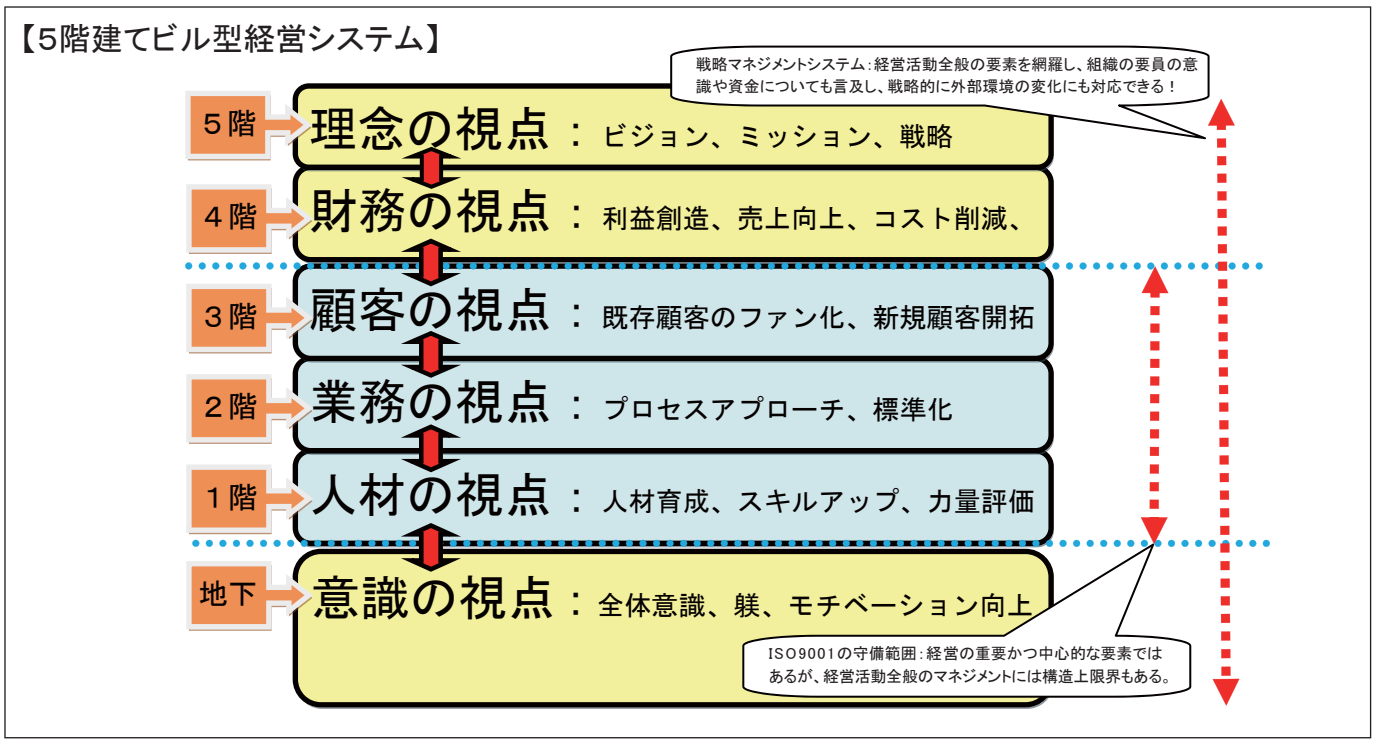
企業の最終目的は、利益の創造ではありません。これが最終目的になってしまうと、顧客や社会に役立つ重要な使命が無視され、「さまざまな偽装、改ざん等」に繋がり、永続的発展は望めません。利益の創造とは、企業の理念に基づいたビジョン(あるべき姿)を実現するための重要な手段であり、顧客や社会にお役立ちした証しです。

②財務の視点

数年先のビジョンを実現するためには、健全な財務体質が必要になります。単年度の売り上げ向上、コスト削減だけでなく、企業の健康状態(収益性、安全性、効率性、成長性等)を把握しながら中長期的な視点で、取り組む必要があります。この財務感覚を全社的に共有することで、コスト意識の高い社員の育成に繋がっていきます。

③顧客の視点

健全な財務状態の維持向上の為には、お客様の満足度を上げ、自社のファンになってもらう必要があります。既存顧客や新規顧客のニーズやシーズを意識した戦略的なマーケティング活動は財務状態の健全化には必要



不可欠です。
（ISO9001では、「顧客重視」で要求していますが、具体的なマーケティングについては言及されていません）

④業務の視点

お客様から高い満足を得られる良い製品、サービスの提供には、製品実現の各段階において、様々なプロセスを有効に機能させる必要があります。プロセスのレベルアップのためには、業務の標準化や文書化も必要となり、最適な業務手順の確立が組織の効率性向上にも大きく寄与します。
（ISO9001では、「製品実現」において明文化）

⑤人材の視点

優れた設備やノウハウを保有していても、それを有効に活用するには、各社員の力量に掛かってきます。各社員の力量のレベルが製品やサービスの品質に大きく影響するため、計画的な教育訓練は欠かせません。特に、社員の多能化が進んでいる組織では、少数精鋭で生産性の高い企業に成長されています。
（ISO9001では、「人的資源」において明文化）

⑥意識の視点

どんなに優れた力量を持つ社員で構成された組織でも、みんなの意識が低い状態では有効に機能しません。各人のモチベーションを向上させ、仕事のやりがいを見出せるようにすることがリーダーには求められます。逆にここが詰まってしまうと、他の全ての視点に大きな影響を及ぼし、経営活動全般が上手く回らなくなります。

尚、この6つの視点の中で、目で見え難いもの（理念、意識）が、目で見えるもの（財務、顧客、業務、人材）を生み出しているという摂理があります。また、この「理念」や「意識」は目で見え難いものなので、後継者に引き継ぎ難く事業継承を困難にさせている大きな要因にも成り得ます。

おわりに

2015年発行予定のMSS(マネジメントシステムスタンダード)は、全てのマネジメントシステムの共通的な基本システムであり、このシステムに品質や環境分野の個別要求事項をプラグインする構造となっています。この規格の内容には、今回の6つの視点も取り入れられ、戦略的なマネジメントツールとしてレベルアップしています。
（ISO9004に近い内容です）

良い製品、サービスの提供で顧客満足を高めることだけではなく、時代や環境の変化にも柔軟に対応し、従業員がやりがいを持って働け、永続的に繁栄できる企業作りのためにも、ISOを有効活用する必要があります。

角子 裕司 （かくし ゆうじ）
中小製造業の経営体質強化支援を専門に活動。

温室効果ガス排出量検証業務

地球温暖化防止のため温室効果ガス排出量の削減はグローバルな環境問題といえるでしょう。東京都では全国に先駆けて、温室効果ガス排出量の削減義務と排出量の取引制度が2010年より始まっています。そして2011年はお隣りの埼玉県でも同様の取り組みが開始されました。これらの制度では、電気やガスなどエネルギーの使用などによって排出される温室効果ガス排出量の実績を東京都や埼玉県に報告する際に、報告書に記載された内容に相違ないことを第三者検証機関で確認（検証）した上での提出を求めるものです。現在、MICでは東京都と埼玉県の検証機関の登録を受けております。マネジメントシステム審査と同じように、VisionとMissionの基本理念のもと皆さまのお役に立つ検証業務を心がけています。ご興味がございましたら、お気軽に弊社までお問合せください。

JRCA講演会開催

MIC審査員も審査員資格を登録している財団法人日本規格協会マネジメントシステム審査員評価登録センター（JRCA）主催の講演会が昨年12月に東京と大阪で開催され、多数の審査員が参加しました。講演会は、主にJRCAに登録している審査員を対象に年1回以上開催されているもので、今回は「更なる改善へ向けて、真のコミュニケーションを（コミュニケーションスキル向上のポイント効果）」、「ISO19011（品質/環境マネジメントシステム監査のための指針）の改訂について」の内容で行われました。

同様の講演会はIRCA（国際審査員登録機構）、CEAR（環境マネジメントシステム審査員評価登録センター）など、他の審査員資格登録機関でもほぼ毎年開催されており、弊社の審査員も参加し、情報の更新や資質の向上に役立てています。

世界品質デー 2011

1989年に国連の提唱で開始された世界品質デー（11月第2木曜日）は、品質の重要性・役割への理解・認識促進を目的にしています。2011年の世界品質デー、11月11日を含む11月7日～11日の世界品質週間には各地で様々なイベントが行われ、また、CQI（公認品質協会）の主導による祝賀イベントして11月30日にはロンドンで国際会議が開催されました。2011年の世界品質デーのテーマは「エクセレンスの追求」。成功のために組織は継続的に改善努力を行わなければならないという事から選定されました。

CQIが英国で行った最近の調査では、93%のビジネスリーダーが品質管理を事業成功の鍵と捉えており、QMS導入が生産性の改善や顧客満足・維持の向上に繋がるとの考えが多数との結果だったそうです。イベントを通じて品質や品質マネジメントシステムへの認識がより広く認知されることを期待したいと思います。イベント等の詳細については、CQIのHPをご参照ください。（http://www.thecqi.org/）

Q&A

Q 数年前から手がけていた新規事業が軌道にのってきたので、既存のマネジメントシステムに、新たに組み入れようと考えています。この場合、認証の範囲は、どのようになるのでしょうか？

Answer

新規事業をマネジメントシステムに組み込む場合、その新規事業が既存の認証範囲（製品・サービス、プロセス、及びサイト）でカバーされていなければ、認証範囲を拡張しなければなりません。

認証範囲を拡張するためには、事前に審査機関に申請して頂き、認証範囲の適切性について審査を受ける必要があります。審査にあたっては、審査機関は以下のような点を考慮します。

- 新規事業に関わる製品・サービス、プロセス、及びサイトが、正確に表現されているか。
- マネジメントシステムの中で新規事業の製品・サービス、プロセス及びサイトが、全て含まれているか。
- 一般的な知識をもった認証の利用者（顧客、市場など）が、認証の対象を正しく理解でき、誤解を招かないか。
- 実際には認証対象ではない製品・サービス、プロセス、サイトなどが、含まれていないか。
- 外部委託されている主要なプロセスが、省かれていないか。

認証範囲については、公益財団法人日本適合性認定協会（JAB）発行の「マネジメントシステム認証に関する基本的な考え方－認証範囲及びその表記－」（JAB NS512:2011 第2版）に、基本的な考え方が整理されていますので、そちらも参照してみて下さい。

尚、追加認証するための拡張審査は、多くの場合、定期の維持審査、又は更新審査と合わせて実施します。内容によっては審査工数の追加が必要になり料金が変更になる場合もありますので、審査予定時期の遅くとも3ヶ月前までにはお手続きのためご連絡をお願いします。また、拡張される場合、その運用実績が必要です。追加認証をご検討の際には、弊社営業部までご相談ください。

審査の現場から

株式会社リチウムエナジージャパン 様 （ISO/TS16949：2009 認証登録）

MIC審査員　美濃 英雄　*Hideo Mino*

株式会社リチウムエナジージャパン様（以下LEJ）は、株式会社GSユアサ、三菱商事株式会社、三菱自動車工業株式会社の3社が出資設立した大型リチウムイオン電池の開発・製造・販売会社です。

現在は、温室効果ガス（CO_2）削減に寄与する環境対応車である電気自動車（EV）向けの大型リチウムイオン電池を主に生産されており、アイミーブ（電気自動車）等に搭載されています。ISO9001に自動車業界の固有要求事項が付加された自動車セクター規格ISO/TS16949：2009を2011年9月に認証取得されました。

審査は、ISO/TS16949が要求するプロセスアプローチに基づいて行われました。各プロセスの目的は何であり、それらはシステム全体にどう寄与するのか、プロセスの有効性をどう評価しているかなど、部署の枠組みを越えたインタビューに、プロセスオーナーを中心に対応頂きました。

特に2次審査は、2つのサイトで、2人の外国人審査員と2人の通訳で8日間にわたって行われました。ISO/TS16949規格は全ての製造シフトの審査が義務付けられており昼勤・夜勤における審査となりました。また、個別の顧客固有要求事項に対する適合性も審査対象になっており、細かな部分に及ぶ詳細な審査が必要でした。

LEV50　単セルおよび4セルモジュール

LEJ様は、世界に先駆けて大型リチウムイオン電池を量産化されています。常に一歩先を見据えた研究開発で品ぞろえを拡充し、生産能力を増強して、電気自動車、プラグインハイブリッド自動車などの環境対応車、鉄道、新交通などのエネルギー回生システムや、太陽光や風力などの新エネルギーシステムが広く社会に浸透し、環境に対応した「新しい社会」を実現することが使命であると考え、リチウムイオン電池の力で社会の要求に応えようとされています。

現在LEJ様は、約375億円の設備投資額で、敷地面積5万6000㎡の新工場を滋賀県栗東市に2011年7月完成され、京都府京都市、滋賀県草津市、滋賀県栗東市の3拠点体制を構築されています。今後の長期的な計画として、アイミーブで年間10万台に相当するリチウムイオン電池を供給できる体制から、さらなる車種拡大を予定されており、ISO/TS16949についても拡張審査を予定されています。

また、GSユアサグループにおかれましては、航空宇宙などの特殊用途、鉄道用回生エネルギー吸収システムなど、多方面の環境負荷低減に貢献されています。そのカギを握るのは、安全で効率が良く、狭いスペースにも搭載できる高性能なリチウムイオン電池です。これら様々な用途に実績のある技術力をもとに、EV電池の基礎要素技術開発などで、LEJ様を応援されています。

栗東工場

http://lithiumenergy.jp/

MICリレーエッセイ㉝

審査員からのエッセイをお楽しみください。

From 秋田県秋田市
高橋 敏治
（たかはし　としはる）

PROFILE

専門分野	ISO9001 － 電子、半導体組立プロセス、プラスチック成型
経歴	株式会社アキタ電子、株式会社日立製作所半導体事業部、日立半導体蘇州有限公司、MIC審査員（現職）

「秋田市 竿燈まつりで元気に」

毎年8月3日～6日の間行われている秋田市の竿燈(かんとう)祭り、特に昼竿燈をご紹介しましょう。まつりのメインは竿燈大通りで行われる夜の7:30から9:00頃までになりますが、日中明るい時には昼竿燈というのが行われます。千秋公園入り口で行われる昼竿燈は妙技会とも言われ実に面白い。竿燈の演技を行うのは、秋田市内の竿燈会(自治体、地域、企業、学校等それぞれで作られる団体)です。昼竿燈ではそれら竿燈会が日頃の訓練の成果を競い、まさに力量が評価される場面です。竿燈を持ち上げて演技する部門(規定・自由演技、個人・団体、竿燈の大小)と、お囃子部門(和太鼓と笛の合奏)があります。竿燈の演技では、竿燈会のチームがトーナメント制で戦い、優勝チーム(または個人)を決めます。大きな竿燈では重さが50kgもあり、持ち上げるだけでも大変です。演技中の様子は、まさに体育会系で、応援合戦なども見もの。自分たちの目標達成を目指して演技する姿は夏の高校野球のような感動を覚えます。若手からベテランの演技者までおり、まつりの伝統が継承されているのを感じます。昨年は東日本大震災の被災者が招待され、皆さん元気をもらったとのこと。竿燈まつりをご覧になる機会がありましたら、是非、昼竿燈も見て頂き、元気になってほしいですね。

連載「環境とISO14001」㉝

第33回 「 化学物質（3）」

MIC環境審査員顧問　郷古 宣昭　*Nobuaki Goko*

今回は「ダイオキシン」と「環境ホルモン」について解説します。

ダイオキシンと環境ホルモンはその毒性の強さゆえに市民にパニックを与えたことで共通しています。事実はどうなのか簡単に解説します。

◇ダイオキシン

1. ダイオキシンとは

「ダイオキシン類対策特別措置法」では本来のダイオキシンであるポリ塩素化ジベンゾパラジオキシン75種とポリ塩素化ジベンゾフラン135種、類似物質コプラナーPCB十数種を加えたものを「ダイオキシン類」と定義しています。これらの化合物のうち、毒性があると認められるのは約30種類でその強さは最強の1に対して10万分の1まで広く分布しています。そのため、発生量・排出量は最強物質を1とした毒性強度を乗じたものを（通常17種）足し合わせた値を「毒性等量（TEQ）」として表わします。

2. ダイオキシンの毒性

ダイオキシンの毒性については、急性毒性の他に催奇形性、発がん性、免疫毒性、生殖毒性、内分泌攪乱性などが報告されています。特に1994－1998年にかけてパニックと言ってよいほどのダイオキシン旋風が吹き荒れ、メディアがそれを煽りました。例えば、「サリンの2倍の猛毒」「塩素系樹脂の燃焼で発生する」「廃棄物燃焼炉付近で新生児死亡率が高い」などです。

当時は小型の古い焼却炉が多く、日本の大気中ダイオキシン濃度は欧米のそれより高かったことは確かで、それが雨に混って田畑を汚し、海に流れ、魚貝類に蓄積し、それを食べた母親たちの母乳への蓄積が心配されました。実際「母乳を新生児に与えるべきかどうか」真剣な議論がありました。また、特にダイオキシンの印象を悪くしたのはベトナム戦争で米軍が大量に散布した枯葉剤で、ベト君・ドク君のような先天性障害児が多数生まれているという報道でした。

3. セベソ事件と「猛毒性」への疑問

1976年にイタリアのセベソでは農薬工場のトラブルでダイオキシンそのものが空から降ってくる事件が発生しました。ほぼ3万人が被曝したと推定されていますが、約150人のクロルアクネ（塩素ニキビ）を発症した程度で、重篤な事態に至ったという報告はありませんでした。そもそも、ダイオキシンの毒性については、その根拠となる動物実験のデータにバラツキがあり、その幅は8000倍にも及んでいます。前記特別措置法の厳しい規制値は最も厳しい実験結果を採用し、高い安全率を掛けたものと思われます。

4. 焼却炉主犯説の崩壊

当時、ダイオキシンの85％は焼却炉から発生しているとしていましたが、その後、横浜国大の中西先生らの膨大な分析調査から、かつて使用していた水田用の農薬にダイオキシンが含有していたこと、それによる土壌への蓄積残留は焼却炉に由来する量の少なくとも10倍はあることが判明しました。また、母乳中のダイオキシン濃度は25年間で半減していることが大阪府の保存サンプルの分析で明らかになりました。さらに、別グループのベトナムでの調査からは枯葉剤と先天性障害発生率との関係は示されませんでした。

しかしながら、これらの科学的知見は省みられることなく、「ダイオキシン類対策特別措置法」は予定通り成立しました。そして、日本では、高性能の焼却炉が続々建設され、多くの分析機関が誕生しました。

◇ 環境ホルモン

正式には「外因性内分泌攪乱物質」と言います。環境に残留する化学物質が動物の体内に取り込まれ、あたかもホルモンのように作用する、というものです。動物生態学者シーア・コルボーンが世界各地で起こっている野生の鳥類・動物類の生態異常を調査して、共通の原因として「内分泌攪乱作用が推定される、やがて人間にも及ぶかもしれない」として警鐘を発したものです。これも、メディアによって煽られた点でダイオキシンの状況とよく似ていますが、人々の関心が薄れ、今は終息しています。長期的に注視していくべき問題と思います。

次回は、東日本大震災後1年のタイミングになりますので、環境マネジメントシステムに関連して何が変わり、何を変えていかねばならないか考えてみたいと思います。

お客さまからのお便り

子供たちに喜ばれる通学カバンの提供

株式会社ハシモト（ISO9001:2008認証登録）
営業課　浦田 清邦

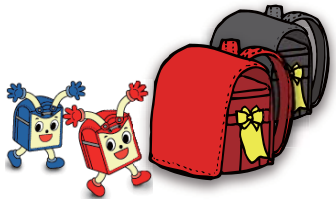
本社（富山県富山市）

当社は、ISO9001を2000年に取得しました。その時に定めた品質方針は「子供たちに喜ばれる通学カバンの提供」です。この方針が旗印になり、全社一丸となって子供たちにとってどんなランドセルが良いのかを常に研究し続けています。

「担ぎやすいランドセルを開発する」というテーマを掲げ、チャレンジした一つが、背鈋(せかん)という肩ベルトの取り付け金具の部分の開発です。従来の背鈋(せかん)では、肩ベルトが下がっていましたが、新開発の「フィットちゃん」背鈋(せかん)では、角度をつけて立つような仕組みにしました。そうすることで、ランドセルが肩と背中により密着するようになり、肩や腰への負担が軽減されました。「フィットちゃん」背鈋(せかん)を開発する中で、客観的な比較が必要と考え、従来品との比較やデータ取りに信州大学繊維学部様のご協力も頂きました。

また、「夏場に蒸れる」という意見から、背中が触れる面に、一定の撥水性を保ちながら通気性、透湿性を格段にアップした「エアーフレッシュ」という素材を開発・採用しました。さらに、ウェービータッチ背形状、タフ＆フィット肩ベルト、トリプルガードなど快適・丈夫な機能も多く開発しております。

昨年度は、「伊達直人」を名乗る匿名寄付が全国で相次ぎ、話題となりましたが、弊社にも同様の名義で島根県へのランドセルの送付依頼のお申し込みをいただきました。改めて、ランドセルに対する関心の高さを実感したと同時に、これからも「子供たちにとって何が良いのか」というスタンスを変えずに日々精進して参りたいと思っております。



▶http://www.laponte.co.jp

天然青森ヒバのある暮らし

ヒバ開発株式会社（ISO9001:2008 認証登録）
代表取締役　大見 義紀

事務所・製造工場（青森県大間町）

弊社は本州最北の地、青森県大間町にて「青森ヒバ」を利用した化粧品・雑貨品・木工品等を開発・製造・加工・販売をしています。

「青森ヒバ」とは、木曾のヒノキ、秋田のスギとならぶ日本三大美林のひとつで、青森県の県木にも制定されています。北国の厳しい風雪にも耐え、たくましい生命力を持つ魅力ある天然木です。

収斂作用など様々な効果のある天然有効成分「ヒノキチオール」や、清々しく心地よい香りの源「ツヨプセン」などの芳香成分を含んでいることが青森ヒバの特徴です。日本国内に自生する「青森ヒバ」の約82％が、青森県の下北半島と津軽半島を中心に分布しています。今年、世界遺産に登録された中尊寺金色堂をはじめ、神社・仏閣の建築材として古くから多く利用されています。

弊社は、肌に直接触れ、日常生活でお使いいただく各種ケア製品を中心に、人にも環境にも優しく、使い続けることによって確かな効果が実感できる天然青森ヒバ製品を提供しています。

「天然の贈り物…天然青森ヒバの生命力と神秘の力、そして癒しの香りを通じて、皆様の暮らしをうるおいあふれるものにしたい」これが私たちの願いです。

▶http://www.aomori-hiba.com/

ちょっといっぷく

今年の干支は壬辰（みずのえ・じんしん）。「壬」は十干の9番目にあたり、「妊」の意味から草木の内部に新しい種子が生まれた状態を表しているといわれ、「辰」は「振」るうの意味から、勢いが盛んで草木が伸長する状態や上昇・発展を表しているそうです。

今年は夏季オリンピックがロンドンで開催されます。古代ギリシャで行われていたオリンピアの祭典を元に始まった近代オリンピックは、夏季大会が1896年にギリシャ・アテネで、冬季大会は1924年にフランス・シャモニーでそれぞれ第1回が開かれ、途中世界大戦での中断を挟みながらも継続し、今年のロンドン大会で夏季大会は第30回を迎えます。ロンドンでのオリンピックはオリンピック史上初となる同都市での3回目の開催となるそうですが、日本は過去2回（1908年、1948年）とも参加していないため今回が初参加となります。

日本がオリンピックに初めて参加したのは、今から100年前の1912年のスウェーデン・ストックホルム夏季大会です。1912年は明治から大正に改元した過渡期の年になりますが、世界でも清の滅亡、タイタニックの沈没など歴史的な出来事も多くあり、また映画で有名なユニバーサル・ピクチャーズの設立、大阪の観光スポットとして人気の通天閣（初代）の完成もこの年でした。そして、今から100年後の2112年には、未来からやってくる設定のネコ型ロボット、ドラえもんが誕生するそうです。

今年は十二支でも唯一架空の動物である「辰＝龍」があてられ、中国では吉兆をもたらす聖獣とされ権力者の象徴として扱われていました。十二支における「辰」は正義感と信用を表しているそうで、今の時代に最も必要なものかもしれません。皆様方からの信用を多く頂けるよう更なる進歩に向けて邁進していきたいと思っております。皆様方にとりましても、龍のような力強さで上昇・発展する年となりますよう心よりお祈りしております。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

研修コースのご案内

内部監査員研修コース

マネジメントシステムの維持・改善のために必須の内部監査。その知識とスキルを身に付けます。これから導入を予定されている企業や、既に導入され更に効果的な運用を目指される組織の皆様方にもお薦めです。

内部監査員コース 9001/14001/18001 （2日間）

【開催地】 東京・大阪・富山・金沢・新潟・福井・他

【対象者】
- ●品質/環境/労働安全衛生マネジメントシステムの導入を予定/検討している
- ●システムをより効果的に運用したい
- ●効果的な内部監査を行いたい

審査員研修コース

審査員への最初のステップです。合格すると、審査員補になる資格が得られます。内部監査リーダーの方にもお薦めです。

ISO9001 ：IRCA認定 審査員研修コース （5日間）

ISO14001：IRCA認定 移行型審査員研修コース （3日間）

【開催地】 東京

【対象者】
- ●審査員の目で内部監査を行いたい
- ●内部監査グループのリーダーに任命された
- ●将来審査員を目指している

～ 受講生からのお便り ～

ISO14001：2004審査員研修コースを受講して

移行型環境審査員コース（2011年6月）受講
平田 正浩

約4年前に品質審査員コース（2008年4月）を受講させていただき、企業にとってISO取得の必要性が理解できるようになりました。当時の勤務先である協成産業株式会社は、MICでISO9001、ISO14001を取得しており、在籍していた支店は主にトヨタ自動車の部品(不織布)を供給しております。その企業活動の中で品質保証は当然ですが、環境という面でも非常に厳しく要求されています。取引先からの厳しい要求の経験と信用金庫での勤務経験(30年勤務、中小企業診断士を取得)により、第3の人生(定年後)の活動として、中小企業の成長に繋げたいとの思いでの環境審査員コースの受講となりました。

本研修は、講義・ケーススタディーを交互に取り入れ、また、郷古、大村両講師の実践に即した講義とアドバイスが参考となりました。今後のISOの活動に大きな知識となりました。今後は審査員としての多角的な目で、また、講義でご教授頂いた事を忘れることなく、充実したISO推進に邁進します。早速、IRCAに環境審査員補の申請も致しました。

お詫びとお知らせ

連載「審査員の心理」はお休みさせて頂きました。ご了承ください。

ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション株式会社
http://www.moodygroup.co.jp/mic_index.htm

◇ **東京事務所** 〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-4-2 日本橋Nビル4F TEL：(03)3669-7408 FAX：(03)3669-7410
E-mail ： mi-certification@moodygroup.co.jp

◇ **大阪事務所** 〒532-0003 大阪市淀川区宮原4-1-14 住友生命新大阪北ビル13F TEL：(06)6150-0571 FAX：(06)6150-0575
E-mail：mic-osaka@moodygroup.co.jp